



施設園芸技術指導士としての抱負

横山 京太郎 東罐興産(株) 東部販売部関東営業所

私は、農POフィルムメーカー東罐興産(株)関東営業所で営業を担当しています。九州の久留米市で特殊肥料と農業用資材を販売する販売店に10年勤務した後、中途入社で現職に就くこととなりました。サラリーマンの家庭で育ちましたが、幼少期は母の実家(大分県)へ出向き、田植えや稲刈りと毎年の恒例のように土にふれる機会が多くありました。なんとなくではありましたが農業に関わる仕事に就きたいという気持ちが忘れられず、大学卒業後農業関連の販売店に就職しました。生産者、JA、メーカー等多くのかたとお付き合いができ農業の楽しさ、難しさを学ぶことができました。

現在、関東地区で自社製品の販売促進を中心に、生産者から「こんな物があればいいな・こんな事でこまっている」の声に答えられる既存製品やニーズを受けて新たにつくる新製品の提案を通じて、現場に近い営業マンであるように心がけています。

今回、農業関連の仕事に就き20年を迎える節目となる年に施設園芸技術指導士を受験し、改めて施設園芸の奥深さに気づかされました。日々の営業活動で知らず知らずのうちに自分のフィルターでのみ情報を取捨選択し、現場志向と言いながらも自分の経験のみにとらわれているのではないかと反省しました。施設園芸を盛り立てる為に、より幅広くアンテナを張り‘常に疑問を抱ける営業マン’であり続けたいと思います。

昨今、台風がもたらす甚大な災害で国内農業が揺らいでいます。業界自体もダメージを受けるなか、厳しい状況を跳ね返そうと試行錯誤されている生産者の方々の力強さを目の当たりにする機会がありました。わたくしどもは農POフィルムメーカーとして、当社の

「2019年度社長方針」であります、「お客様の期待を迅速、的確、丁寧を実現し、安心と信頼性で評価される企業を目指そう！」を念頭に日々営業活動を実践し、生産者の皆様のお手伝いを行ってまいります。

今後、農業業界も今以上にグローバル化が急加速すると言われていています。高齢化、人手不足、天候不順による農作物の価格低迷と暗い話ばかりが目立ちますが、世界に目を向けることが、日本農業の持続的発展のカギであると実感しております。すでに他業界では、国内市場をあきらめ、生産拠点さえも海外へ依存する傾向にあります。しかし、農産物においては違います。「Made in Japan」の価値を前面に発信することで需要の拡大が見込め、国内農作物の飛躍はまだまだ期待できると思っております。

最後に、トーカンのシンボルでもあります「シルバーポリトウ」ですが、多くの生産者様にご愛顧いただき、まもなく販売60周年を迎えようとしております。

歴代の諸先輩方々に敬意を表すとともに更なる飛躍を目指しこの度、簡易高設栽培シート「実楽るベツト」(長期展張型遮光フィルム+特殊不織布：商品名)と、高保温・除湿機能内張りカーテン「WP-S」(トーカンウオーターパス+不織布：同)の販売を開始しました。既に果菜類を中心に一部の地区で導入いただき、好評を得ております。経済的負担を減らし作業性を向上させた、まさに生産者の声に答えた資材となっております。

皆様に、トーカンは「やるな・やってくれるな」と思って頂けるよう、粋にとらわれない「おもしろい製品」開発と販売をおこなって参ります。ご期待ください。